

総務産業建設常任委員会 行政視察 報告書

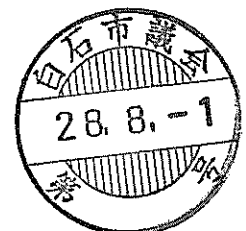
平成28年7月29日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 四 籠 英 夫

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年7月13日(水)～7月15日(金)
視 察 地	神奈川県海老名市 長野県塩尻市 長野県上田市
調査項目 (研修事項)	神奈川県海老名市 ・スマートフォンによる観光情報提供事業について ・総合窓口の導入と民間委託の取り組みについて 長野県塩尻市 ・センサーネットワークによる情報化と鳥獣被害対策について 長野県上田市 ・真田丸を活用した観光事業について ・耕作放棄地対策事業としてのワイン用ブドウ団地、農産物直売所 について
対応者・講師等	各市担当者



概要

海老名市

【1】スマートフォンによる観光提供事業について

「海老名市観光協会」は、市からの委託事業を主に行っていたが、自主財源が乏しく市からの委託金への依存度が高かったため今後のあり方について会員対象にアンケートを実施した結果、H29年で発展的解散となった。平成26年度は「えびな元気にぎわい検討会」を設立し、平成27年3月に「えびな元気にぎわい振興条例」を検討し、平成28年4月から施行している。

さらに今年度はこれらの基本構想に掲げられた施策を、より具体化した「えびな元気にぎわい振興計画」の策定に取り組んでいる。

「えびな元気にぎわい検討会」において、課題として「回遊する手段・仕組みができていないこと」が挙げられており、「にぎわいづくり」の方向性として、「線」及び「面」としての魅力を高め、「市内における回遊を促進する」を掲げている。その他として「新しいガイド・ツールの活用」を掲げ、近年まち歩きや名所・名店廻りなど「観光アプリケーション」などをにぎわいづくりへ向けたガイド・ツールとして活用していくことも盛り込んで、スマートフォンアプリの導入を目指して検討を行った。このアプリは観光用だけでなく防災用の機能も兼ね備えた商品であったため導入を決め、平成27年5月11日に委託契約を締結し、画面のデザインや登録内容の選定、各種情報の収集等を行い、同年10月1日に配信を開始した。その後も、随時情報を追加掲載している。

【2】具体的な事業活動と特色について

アプリの主な機能として、「にぎわいナビ機能」として、各種スポット検索や目的地までのルート案内、音声案内を提供し、回覧数の多いスポットをランキングでトップ画面に表示している。登録されているスポットは「観る・楽しむ・食べる・買う」などだけでなく、公共施設、トイレ、WiFiスポット、おむつ替え設備、授乳室、医療機関、コンビニ、AEDなども掲載しており、約1,000件を登録している。

また大きな特色として「防災ナビ機構」がある。これは、全国瞬時警報システム（Jアラート）で地震情報を受信すると、強制的に避難画面に切り替わり、地震の震度や到達時間を知らせ、最寄の避難所への案内を行う。さらに、観光用アプリとしては、全国で初めて国策として進めている災害情報共有システム（Jアラート情報）

と連携し、安全・安心に関わる情報の提供が可能となっている。

また、このアプリは5カ国言語（日本語・英語・中国語(2)・韓国語）に対応しており今後増加が見込まれる外国人観光客への対応も可能となっている。

【3】 予算について（国・県補助金を含む）

導入費用（委託費用）は990万円。補助率100%の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用した。

【4】 今後の課題

ダウンロード数を増やしていくことと掲載情報を保つことが挙げられる。ダウンロード数は6月末で4,586でこれを増やすため、今後掲載店舗で特典を付与する事業や、この事業をPRする事業を検討している。また、年2回を目途に掲載情報の確認を行う。

【所感】海老名市における観光情報提供事業の素晴らしさと先見性は十分認識させられた。本市でもWIFI事業などに取組み、観光情報の提供に努めているが、情報提供と同時に観光事業（現場）の内容の充実にも努めることが肝要だと思う。施設の整備、受け入れ態勢の充実等に力を入れることも必要だと思う。

【1】 総合窓口の導入と民間委託の取り組みについて

①海老名市の概要

- ・人口 130,097人
- ・面積 26.59平方km
- ・交通アクセス JR相模線・小田急線・相模鉄
東名高速海老名SP・圏央道海老名IC
- ・予算規模 H28年度当初予算 643億円(一般387・特別258)
- ・職員数 802人
- ・支所・出張所 なし
- ・市庁舎 平成元年4月 移転新築
地上7階地下1階（建築面積2,250㎡）

【2】 総合窓口導入の経緯

- ・人口増加や市民ニーズの変化等に伴い現在のフロアに課題
- ・スペースの不足、混雑、バリアフリー化、分りにくい案内
複数の課にまたがる手続き

★解決策 待合スペース拡充、手続きのワンストップ化推進

事務室の分離、案内の改善

★総合窓口開設までの経過

関係部の次長により検討を開始し、方向性の確定後は各課担当者
とコンサルティング委託業者を含めた検討会議を開催（7カ
月、週1回程度）

★ 予算内訳 コンサルティング委託 約 4,100 万円

什器備品 約 7,200 万円 建築・工事費約 1,700 万円

★総合窓口のポイント

市民総合窓口と福祉総合窓口にエリア分け

★案内・手続き方法の改善

番号発券システム導入、コンシェルジュ配置、手続きの流れ見
直し等

★サインの改善

窓口の色分け、目的別の表示等

★ゾーニングの大幅変更による待合スペースの拡大

レイアウト変更、事務スペース不足を補うため管理部門を別棟
に分離

★執務エリアの工夫

什器備品の変更による事務室内の省スペース化等

★利用者サービス向上のためのスペース創出

キッズスペース・授乳室の設置・移動式カウンターの採用

★現在の運営状況

- ・一日あたりの来庁者数 450~500 人
- ・アンケート調査結果 挨拶・身だしなみ・待ち時間等
- ・結果 全体評価＝46.6 点（50 点満点）

★総合窓口業務委託について

- ・委託業務 ①フロア案内業務
- ②市民総合窓口(証明発行・住民異動・戸籍届等)
- ③総合福祉窓口

★職員数と削減予算額

○市民総合窓口業務

- ・正職員数 委託前 20 名 委託後 8 名
- ・削減予算額 約 55,000 千円

○福祉総合窓口業務

- ・正職員数 委託前 121 名 委託後 114 名
- ・削減予算額 約 19,000 千円

【所感】きめ細かな住民サービス、分りやすい庁舎のレイアウトなど、学ぶべき点は多々あったが、白石市の10分の1の面積に4倍の人口を擁しているという、行政効率は比較にならない状況を痛感した。本市でも正面玄関に総合案内を設置し、来庁者サービスに努めているが、庁舎そのものが老朽化し狭隘である。施設が分散し市民にとっては利用しにくいのではないだろうか。これらを解決することが課題だと思う。

また、最後に見学した図書館は民間委託とのことであったが、地上4階地下1階の巨大な施設であった。喫茶などのサロンも取り入れた我々の常識を超えた施設に驚嘆させられた。本市の図書館も老朽化が進んでいると思われるので、将来に向けて先進事例を研究するのも重要なことだと思う。

~~~~~

塩 尻 市

センサーネットワークによる情報化と鳥獣被害対策について

★塩尻市が取組んできた情報化施設

- ①「ICT街づくり推進事業」＝情報の見える化
- ②「地域児童見守りシステムモデル事業」＝世界一のアドホック無線ネットワーク
- ③「街中にぎわい創出事業」＝情報拠点・光ファイバー網
- ④「塩尻市独自ICT事業」＝塩尻インターネット

★ICTを活用した鳥獣対策について

・塩尻市北小野地区は、同市南部にある緩やかな溪谷に囲まれた地域で、数年前からイノシシの食い荒らしによる農作物被害が深刻化してきた。平成23年度からセンサーネットワークを活用したイノシシ被害対策に着手。一部地域で試行を行っていたところ、ICT街づくり推進事業に採択されたことを契機に具体化した。

★平成27年度の鳥獣駆除対策状況（捕殺分のみ）

・熊17頭・ニホンジカ115頭・ニホンザル83頭・イノシシ45頭  
キツネ25頭・ハクビシン11頭・タヌキ60頭・カラス339羽

★対策の概要

耕作面積27.5haにおいて、金網・トラロープ・檻アニマルセンサー・携帯電話メール通信などの対策を取ってきた。

①獣検知センサー

- ・熱で昼夜問わずイノシシを感知。
- ・イノシシを感知すると、点滅する光を出して追い払う。
- ・イノシシを感知すると、塩尻市のセンサーネットワークを通じて

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>登録者の携帯電話にメールで通知。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光で稼動するため、電力線の必要なし。</li> <li>・軽量かつ簡素な構造なので、場所を自由に移動可能。</li> <li>・出沒センサーで出沒の時間と場所、動きが分った。</li> <li>・出沒場所に檻やワナを設置し、捕獲メールですぐ検知できる。</li> </ul> <p>★成功のポイントとして、行政（塩尻市）・地元農家・猟友会などが緊密な連携を取り獣の捕獲・追い払いを行ったことが挙げられる。</p> <p>【所感】センサーは1基20万円とのことであり、本市においてもモデル地区を設けるなどして、実施してみる価値はあると思う。また、檻をかけた場合巡視するのも時間と労力を要するので、センサーを設置することで省力化が図れると思う。</p> <p>~~~~~</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 上田市 | <p>真田丸を活用した観光事業</p> <p>★上田市の主な観光地と来客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上田城跡(21,512)・別所温泉(8,994)・菅平高原(10,909)</li> <li>丸子温泉郷(3,919)・美ヶ原高原(2,883)：単位百人</li> </ul> <p>★特徴的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上田城千本桜まつり、上田真田まつり、上田城けやき並木紅葉まつり等</li> <li>・「上田の旬」の活用（真田丸・戦国・アニメ）ブーム</li> <li>・「市民力」の積極的な活用(上田太鼓まつり・真田幸村出陣ねぷた)</li> <li>・市民主体組織の充実(信州上田まつり実行委員会)</li> <li>・観光客の受け入れ体制基盤整備(上田観光コンベンション協会の組織強化、観光トイレ・観光案内板の整備)</li> <li>・その他 NHK大河ドラマ「真田丸」放送への対応</li> <li>・北陸新幹線金沢延伸への対応</li> <li>・滞在型観光ルートの開発</li> <li>・「美味だれ」やきとりの観光利用</li> <li>・大阪夏の陣400周年への取り組み</li> <li>・「信州上田おもてなし武将隊」の活用</li> <li>・信州上田フィルムコミッション事業</li> </ul> <p>★大河ドラマ「真田丸」上田市推進協議会が実施する事業</p> <p>(1)基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年の大河ドラマ「真田丸」放送決定により、大きな経済効</li> </ul> |

果がもたらされるとともに、観光だけでなく幅広い分野に大きなプラス効果が期待されている。

- ・ 「真田丸」を通して主人公の幸村公業績と上田市の魅力を全国に発信することで、交流人口の拡大に結び付けていく。

#### (2)協議会の概要

- ・ 名称 大河ドラマ「真田丸」上田市推進協議会
- ・ 期間 平成26年8月29日～平成29年3月31日
- ・ 構成 上田市他60団体

#### (3)シンボ六文銭に因んだ「6つの重点項目」

- ①情報発信 ②誘客宣伝 ③おもてなし態勢整備 ④大河ドラマ館関連イベント ⑤商品開発 ⑥広域連携

**【所感】**多くの観光地自然環境を有する上田市は、これまでも観光客のみならず、映画のロケ地として数多くとり上げられている。今回大河ドラマの舞台なったことにより、全国的に脚光を浴びて同市の観光に絶大な効果をもたらした。それらを巧みに活用し経済効果に結びつけた手腕は、大いに学ぶべきものがある。但し、ドラマ終了によりブームが一過性のもに終ることのないような工夫が求められると思う。

#### ★耕作放棄地対策事業としてのワイン用ブドウ団地、農産物直売所陣場地区の遊休荒廃地化

塩川地区にある陣場団地は、年間降水量が900ミリ以下と少なく干害を受けやすい地形である。以前は養蚕のための桑園広がっていたが、昭和40年代からは薬用人参が栽培されてきた。

しかし、連作障害や価格の低迷により作付けが減るとともに、農家の高齢化等の要因もあり、平成に入ってから陣場団地の農地25haのほとんどが遊休荒廃地化していた。

#### ワイン用ぶどう栽培の導入

メルシャン(株)高級ワインづくりを目指し、長野県内に自社農場としてワイン用ぶどう栽培地を探していたところ、緩傾斜で風通しが良く寡雨多照な気象条件の陣場地区が候補地となった。これを受けて、平成12年に地元関係者で陣場地区土地利用研究委員会を組織して、ワイン用ぶどうの導入などについて協力体制を構築した。

### 事業の経過

農業生産法人ラ・ヴィーニュを設立。農家から農地を借り受け事業を開始した。借地期間 20 年、借地料 1 万円/年。

### ぶどう栽培用地の造成

平成 14 年から 16 年まで排水路や調整池の整備も実施しながら 10ha を植栽した。その後平成 19 年度には約 21ha の造成が完了した。

### ぶどう苗の植栽

平成 15 年から 22 年にかけて約 7 万本垣根栽培方式で行われ、10a 当り約 0.5 t の収穫量を目指し常時 5 人体制で高品質なぶどうが育てられている。

### 今後の展望

近い将来には、安定的な 80t 以上の収穫をめざしている。子の事業の成功は、ワイン用ぶどうの栽培適地として、上田市に新たな魅力や経済的な効果を生み出し、地域の産業や観光振興に寄与するものであり、今後ワイナリーの誘致等による更なる地域の活性化に、地域住民は大きな期待を寄せている。

**【所感】** 気候や土壌・地形的にぶどう栽培に適していた土地に、ワインの本場フランスの資本が入り、ぶどう栽培からワイン醸造まで一貫体制が構築されたことは、グッドタイミングだった。一般的に耕作放棄地と言え、地形は急傾斜で水利や排水の便が悪く、止む無く放棄地となってしまうのが通例だが、この場合願ったりかなったりの好条件で羨ましい限りだ。参考事例として受け止める以外にない。

### ★上田市丸子農産物直売加工センター

平成 13 年 1 月に生産者・農業関係機関一体となって農産物農産物直売施設研究委員会を立ち上げ、15 年に町が建設委員会を設置して直売所の建設に入った。

- ・ 竣工：平成 16 年 5 月 20
- ・ 総事業費：1 億 6300 万円
- ・ 名称：あさつゆ
- ・ 施設の概要：面積 551 m<sup>2</sup>
- ・ 駐車場：60 台
- ・ 運営主体：町から指定管理の指定を受けた丸子町農産物加工施設



運営組合。

- ・ 運営組合の概要：組合員 200 名 嘱託会員 60 名
- ・ 負担金：入会時：出資金 2 万円・団体 3 万円・年会費 3 千円
- ・ オープン：H16 年 6 月 5 日
- ・ 営業時間：9：00~18：00
- ・ 昨年の実績：来客数・249,037 人 販売額：3 億 2700 万円
- ・ 今後の課題：品揃えを豊富にすることと量を増やすこと。冬場のハウス等を活用した地場産野菜の供給、売り場の拡張駐車場の拡張等。

**【所感】**直売所の取組みは各地で行われているが、「あさつゆ」は生産者と農業関係機関が一体となって取り組んだことが成功につながった例だと思う。また、バーコードを活用して1時間おきに売り上げデータを生産者に配信し、販売状況を見ながら適時入荷をするなど、情報を有効に活用するなどの戦略が功を奏している。さらに、薬品残渣の抜き打ち検査も実施するなど、安全・安心の向上を図り消費者に配慮した取り組みを行い、信頼性を高める努力を評価される。